

「病院給食の衛生管理」と「院内感染対策」の両面で ATP ふき取り検査を効果的に活用



医療編

東京都立多摩総合医療センター

東京都立多摩総合医療センターでは「食品衛生管理」と「感染管理」の手法として ATP ふき取り検査を活用している。同センターの厨房では、委託業者が定期的に食材や環境の微生物検査を実施しているが、検査で問題が見つかった際には、原因究明や改善活動につなげるために、厨房内のさまざまな箇所（例えば包丁やまな板、器具の取っ手、従事者の手指など）で ATP 検査が実施される。

また、ATP 検査は「院内での感染管理」や「中央滅菌材料室における器具の洗浄後の清浄度評価」でも活用されている。院内では、ベッド柵やナースコールボタン、オーバーテーブル、ドアノブ、ベッドのリモコンなど、いわゆる「高頻度接触面」を中心に ATP 検査を行うことで、院内感染に対する意識高揚や、清掃手順の遵守徹底・改善などにつなげている。

また、食品衛生と院内感染では「手洗い教育」は極めて重要な要素となるが、そのための教育ツールとしても ATP 検査は大きな効果を発揮している。